



長谷川利行展 七色の東京

HASEKAWA
Toshiyuki
Retrospective:
The Iridesence of Tokyo

関東大震災から太平洋戦争の直前まで、昭和初期の東京を歩き回り、怒濤のように描きまくった画家がいました。近代化が進む荒川・隅田川沿い、千住のガスタンクやお化け煙突、隅田公園にできたばかりの屋外プール。あるいは浅草の神谷パー、カフェ、地下鉄の駅の賑わい。その街に暮らす、カフェの女給や浅草の芸人、質屋の子守といった無名の人々。復興進む大東京の光と影を、七色に輝く絵の具で描きとめました。

長谷川利行(はせかわとしゆき、1891-1910)、通称リコウ。京都に生まれ、20代は短歌の道を志し、30歳を過ぎてから上京。ほとんど独学と思われる油絵が二科展や1930年協会展で認められます。しかし生活の面では、生来の放浪癖からか、浅草や山谷、新宿の簡易宿泊所を転々とするようになり、最後は三河島の路上で倒れ、板橋の東京市養育院で誰の看取りも無く49年の生涯を閉じます。

利行の絵はその壮絶な生き様からは想像できないほど、明るいつ輝きに満ちて、時に幸福感さえ感じさせます。奔放に走る線、踊るような絵の具のかたまりが、行く先々の現場で描いた利行の日と手の動きをそのまま伝えます。本展では、近年の再発見作《カフェ・パウルスタ》《水泳場》、約40年ぶりの公開となる《夏の遊園地》、そして新発見の大作《白い背景の人物》など、代表作を含む約140点で利行の芸術の全貌を紹介します。



1891(明治24) 7月9日、京都府淀に生れる。
1906(明治39) 和歌山県の私立耐久中学に入学。在学中に小説、詩、短歌など多作し、同人雑誌を発行する。
1909(明治42) 冬休みの頃に耐久中学を中退か。同時期から『みづゑ』誌への投稿や水彩画に熱中。
1919(大正8) 私家版歌集『長谷川本草集』を刊行。
1921(大正10) 東京へ転居。
1923(大正12) 第4回新光画展に入選。関東大震災で被災し、焼け跡をさまよう。震災を歌う個人雑誌『火岸』を刊行、その後京都へ戻る。
1926(大正15・昭和元) 再上京し、日暮里に住む。第13回二科展、第7回帝展に初入選。
1927(昭和2) 1930年協会第2回展に初入選。第14回二科展で梶牛賞を受賞。友人の矢野文夫や熊谷登久平と連日連れ立って出かけ、浅草から隅田川の土手を歩いて写生し、夜は酒場やカフェに通う生活を続ける。
1928(昭和3) 1930年協会第3回展で協会奨励賞を受賞。巖光や井上長三郎と交友。
1929(昭和4) 日暮里の下宿を離れ、知人宅や浅草・山谷の木賃宿を転々とする生活が始まる。
1934(昭和9) 浅草区龍泉寺町の東京市営龍泉寺宿泊所に住む。
1935(昭和10) 矢野文夫らが銀座に開いたアモレ画廊にて個展。7月頃、龍泉寺宿泊所を出る。その後、浅草山谷のドヤ街市電泪橋停留所近くの簡易旅館「紅葉館」を定宿とする。
1936(昭和11) 天城俊彦が新宿に開いた天城画廊で、この年から1938年1月まで頻繁に個展を開催する。
1937(昭和12) この頃から胃痛に苦しむ。天城の手配により、浅草から新宿旭町の木賃宿に移る。
1938(昭和13) 天城俊彦が画廊を閉鎖して新宿を去り、利行も新宿旭町の木賃宿を離れる。
1940(昭和15) 荒川区三河島救世軍宿泊所に住む。5月17日、三河島の路上で倒れ、行路病者として板橋区板橋町にあった東京市養育院、板橋本院に収容される。胃癌の手術を拒否。10月12日、知友のみとりもなく逝去。スケッチブックや日記などの遺留品は規則により全て焼却された。

【20分スライドレクチャー】
5月20日(日)、6月2日(土)、10日(日)、16日(土)、24日(日)、30日(土)
午後2時 当館講座室 無料

【展覧会講座】
「利行が歩いた東京」 小林真結(当館学芸員)6月17日(日)
「美術と生活」 原田光(本展監修者、美術史家)7月7日(土)
いずれも午後2時 当館講座室 無料

【同時開催】
常設展 江戸時代から現代まで
牛島憲之記念館 人工物のある風景
公開制作 金田実生

【今回の展覧会】
有島武郎『生れ出づる悩み』出版100年記念
青春の苦悩と孤独を歓喜にかえた画家たち：木田金次郎展
7月21日(土)―9月2日(日)

表紙：《水泳場》(部分) 1932年 板橋区立美術館蔵
表紙右下：《浅草の活弁》(部分) 制作年不詳

中面左上から時計回りに：
《カフェ・パウルスタ》1928年 東京国立近代美術館蔵
《青布の裸婦》1937年
《白い背景の人物》1937年
《少女(質屋の子守)》1931年
《女》1932年 京都国立近代美術館蔵
《タンクのある風景》1929年
《夏の遊園地》1928年

裏面上から：
《ピアノの少女》1937年 愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
《カフェの入口》1930年 府中市美術館蔵
《伊豆大島》1937年 愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
《針金の上の少女》1928年

- 京王線東府中駅北口から
・徒歩17分
・ちゅうバス府中駅行き「府中市美術館」①下車すぐ(8:05から毎時30分間隔で運行、100円)
- 京王線府中駅からバス
・ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ(8:00から毎時30分間隔で運行、100円)
・武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」②下車すぐ
・武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
・国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
- JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
・府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ
・府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
- JR中央線国分寺駅南口からバス
・府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
・お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、60台収容)をご利用ください。



長谷川利行展 七色の東京

HASEKAWA
Toshiyuki
Retrospective:
The Iridesence of Tokyo

2018年5月19日[土]―7月8日[日]

休館日：月曜日 開館時間：午前10時から午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料：一般900円(720円)／高校生・大学生450円(360円)／小学生・中学生200円(160円)
*()内は20名以上の団体料金。前売り料金。前売り券は、5月18日まで府中市美術館、セブンイレブン、ローソン、ミニストップなどで販売します。
*未就学児および障害者手帳等をお持ちの方は無料。 *府中市内の小中学生は「府中っ子学びのバスポート」で無料。 *一部作品の展示替えを行います。
前期：5月19日(土)―6月10日(日) 後期：6月12日(火)―7月8日(日)
主催：府中市美術館 後援：朝日新聞社 協力：長谷川利行の会 企画協力：一般社団法人INDEPENDENT

府中市美術館
Fuchu Art Museum

東京都府中市浅間町1の3
www.city.fuchu.tokyo.jp/art/
ハローダイヤル 03(5777)8600



ぶらり、いこう。





HASEKAWA Toshiyuki

Retrospective:
The Iridescence of Tokyo

復興進む大東京の光と影、そこに暮らす無名の人々を、七色に輝く絵の具で描く。

